



望洋荘便り

第 3 号
平成 16 年
2 月発行

『望洋荘入居者家族の会』を作る提案

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 滉

「介護老人福祉施設 望洋荘」を開設してから二ヶ月になります。このような介護の施設は従来の病院（今なお病院だと勘違いしている人もおられますが）とは異なり、地域の皆様が気軽に集まれる（心のより所の）施設でなければなりません。そのような施設にするにはどうするか。その試みの突破口の一つとして、全く単純な気持ちで考えたのが「利用者の家族の会」を始めたかどうかという点であります。

現在、入居利用者の御家族は「入居者がどんな食事を摂っているのか」「どのように入浴しているのか」「どんなオムツの手当てを受けているのか」「眠れないでいる時は、どのように遇われているのか」などといった疑問が沢山あると思います。まずその疑問を解決するために、「家族会」には勿論、施設のスタッフも参加します。この家族会では、「スタッフに対する質問」があっても良いのです。時には「家族同士の雑談の会」になっても良いし「お茶を飲んで休息する会」でも、また例えば「カラオケの披露の会」になっても良いと思っております。

この家族会は、国会でも市議会でもありませんので、誰かを質問攻めにして、意見を戦わせる議論の場にはいたくありません。スタッフともども親しくして入居者の方の情報交換をして頂くのが目的です。親しい仲間が集まる会にもしたいし、初めて会った人が、その日から親しくなるための会になることも望んでの企画にしたいと思っております。その集まりの中から私は、勿論「施設の運営」についての改善点をくみ取りたいし、小さくても良いのですが「日本の新たなコミュニティ」を構築する一助となればと望んでおります。

ユニットケア方式を取り入れた当施設は十六室の住宅番地のついた部屋の組み合わせが五ヶ所あり、隣組のような近所付き合いができるようになっていきます。

これからの「高齢者社会」は単に高齢者を預ける場所ではなく、「心のよりどころ」となって、誰でも気軽に集まることのできる「コミュニティ」となっていくと私は信じております。

また、「介護老人福祉施設」は長く利用者の入居するところですが、「病院で症状の落ち着いた」方々も入所して来ます。症状が固定した人といっても、それほどの身体的な回復はありません。運動療法や作業療法といった専門的リハビリというより、「生活の中のリハビリ」の方が本人にとって、より効果的なこともあるのです。そのようなことも話合っていける「家族の会」を開催できればと思います。

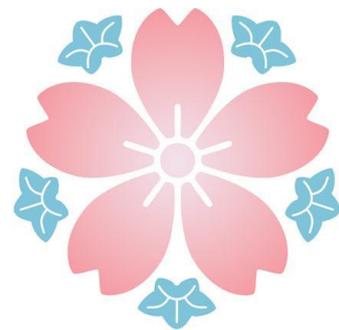
利用者（入所、短期入所）の皆様のご家族と連絡をとりながら、ご家族にとっても過ごしやすい場をつくりたいと考えておりますので、宜しくご協力の程お願い致します。



二見ヶ浦から昇る初日の出

当日は、天気も良く多くの人達が、新しい年への期待をこめて、美しい日の出をながめていました。

『望洋荘』で見掛けるマークには……



社会福祉法人 りんさく福祉会

【望洋荘】のロゴマーク（右図上側）

青い空

碧い海

緑に囲まれ

暖かい太陽の注ぐその場所に

優しい心を持った人達がいる

【りんさく福祉会】のロゴマーク（右図下側）

高齢者及び多くの方々との両親を大事にし敬意を表すべく、

理事長の父（リンベイ 淪平）と母（サク）の名から代表して引用し、『社会福祉法人りんさく会』と命名しました。

爽やかな桜、りんどうの花をあしらった素敵なデザインにして頂きました。

ロゴマーク製作は、理事長の友人である

武蔵野美術大学 教授 森 豪男氏によるものです。

素晴らしいデザインをありがとうございます。

春風亭正朝師匠から初笑いを頂きました。

一月二十日いわき市保健福祉センターで八十四回須田医院主催の『いわき寄席』春風亭正朝師匠の独演会が催されました。そして二十一日望洋荘まで足を運んで下され、利用者の前に扇子片手にお出ましになりました。嘶家さんというのは口調は滑らか、よくもまあ次から次と人を飽きさせないで、笑いの中にのめり込ませるものだと改めて感心してしまいました。本当に『笑う門には福来る』ですね！



第85回『いわき寄席』のご案内

日時 平成 16 年 3 月 23 日(火)

午後 6 時 3 0 分開演

場所 いわき市内郷御厩

『報徳苑』

柳家 小団治
独演会

入場無料につき、ご家族、お友達お誘いの上お越し下さい。

主催 医療法人あさうら会
須田医院

今月の言葉その②（倫理研究所編標語集から）

小さな奉仕が
人の価値を大きくする

人の値打ちは地位や権力、学歴、才能、富や血筋なんぞでは決まらない。真の値打ちは人間の質だ。たとえささやかでも人の喜びに身を尽くす。そんな人をめざしたい。

『卓袱台の時代を再び』

須田 混

三年前（平成十三年）のNHK大河ドラマの中心人物、北条時宗が活躍した鎌倉時代は医療、福祉の面でも飛躍がみられた時代でもあります。この時代の著書「看病用心抄」の中に「病人は看病人を仏の如く思い、又、看病人は病人を一子の如く慈悲の念をなすべし」と記載されています。現代の看護、介護に通じる示唆に富んだものであります。介護保険制度が導入された今日、七百年以上前の僧侶達が述べた教えをどのように具現化すべきなのでしょうか。

高齢者の食事を見てみますと、一般的には余り脂っこくなく軟らかいもの、量的には比較的少量ということになるのでしょうか。老化と共に食欲の低下が認められるのは否めないことではあります。身体機能、知的機能の減退、慢性疾患等に直接の原因は考えられませんが、果たしてそれだけなのでしょうか。思い起こしてみてください。高齢者の一人での食事風景を、また老夫婦のみの食卓の様子を。高齢者を取り巻く環境が極めて大きく作用して、食欲の減退を招いていると思えてなりません。

一昔前はほとんどの家庭でちやぶ台（卓袱台）を囲み一家全員での食事でありました。家庭団欒の象徴的風景でした。しかし、少子高齢化の今日、その様な状況が少なくなってきました。今、ケアマネージャーや他職種の方々が生活支援計画を練って、高齢者を中心とした明るい卓袱台の集いの場を再構築する努力がなされています。集いの語源は「津訪ふ」といわれています。津Ⅱ港である高齢者のもとに多くの人々が集い、明るい談話に弾み、高齢者の知的機能のレベル低下防止を図る卓袱台の風景こそ介護保険制度の求めるところの一つではないでしょうか。

医者の子目―福島民報（健康欄への寄稿文から）

『望洋荘』で、お正月を満喫

多目的ホール（塩屋岬広場）そしていわき七浜通りのテラスに集合し穏やかなそして清々しい初日を六十名の方々と拝みました。

そのすばらしさは例えようもなく、自然に手を合わせたくらいです『この一年も安らかに楽しく暮らせますように』と。昼食は『御とそ』と『雑煮』です。『餅は、やっぱりうまい。もつと・・・』との声もあり、祝い歌、子供の頃に歌った『一月一日』等で正月の気分にもひたり、年の始めの一日を過ごしました。



入居者、その家族の皆さんが集い新年を祝いました。（写真右側）



お正月の献立は、お正月らしくお雑煮でした。（写真右側）



管理栄養士 為永 公子

『家庭的で美味しい御飯を食べて頂きたい』と思い、日々、調理スタッフと共に仕事に取り組んでおります。失礼ではありませんが、利用者の皆様を祖父母、数年後の親の姿と思いつながりながら栄養管理業務だけでなく今の自分から出来る事、するべき事を常に模索しながら接し、努めていきたいと思っております。



看護師 吉村 利賀子

太平洋の絶景を望みながら通勤を始め二ヶ月になりました。この素晴らしい環境の中で自然の移ろいを皆様と共に感じる事の出来る様な看護師でありたいと思います。まだまだ未熟ですので、これからも御指導の程、宜しくお願い致します。



介護士 佐藤 誠

『人生の先輩のお世話に少しでもお役に

たてば』と思いこの仕事をはじめました。今は日々勉強であり、日々忙しさに追われていますが、一日でも早く利用者の日々の生活に欠かせない人材になれるよう頑張つて行きたいと思っております。

『望洋荘』からのお知らせ

インフルエンザが流行しています。身体の弱っている高齢者のホームですので、ご面会の方にも充分注意して頂き、『手洗い』と『うがい』の励行をお願い致します。

『図書室』開設のお知らせ

先日入所されている方のご家族より、たくさんのお書をご寄贈いただきました。さっそく書棚に並べましたところ、本好きのお年寄りが借りてゆかれました。

まだまだ並べるところはあります。不用になりました図書がありましたら、ご寄贈願えれば幸いです。

希望としては、時代小説・凶鑑類・雑誌等・お孫さんの読まなくなったものでも結構です。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

介護保険「Q&A」③

『介護支援専門員』

要介護（要支援）者からの相談に応じて要介護者等がその心身状態に応じて適切な居宅サービスや施設サービスを利用できるよう、市町村・居宅サービス事業者・施設との連絡調整を行う者であつて要介護者が自立した日常生活を営むのに必要な援助に関する専門的知識・技術を有する。一般にはケアマネージャーとよばれることが多い。

『居宅介護支援』

要介護者等が指定居宅サービス等の適切な利用をすることができるよう、その心身の状況、環境、本人及び家族の希望を勘案し、利用する指定居宅サービス等の種類、内容、これを担当する者等定めた居宅サービス計画を作成すると共にそのサービスの提供が確保されるよう、指定居宅サービス事業者との連絡調整や、便宜の提供を行ったり、本人が介護保険施設への入所を必要とする場合には施設への紹介や便宜の提供を、行うこと。こうした居宅介護支援を行う事業を、居宅介護支援事業という。

編集後記

『望洋荘』便り
平成十六年二月一日発行
発行所 いわき市 平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255